

2022年11月24日

各 位

会社名：フォースタートアップス株式会社

代表者：代表取締役社長 志水 雄一郎

(東証グロース市場 証券コード：7089)

問い合わせ先 担当者： 取締役兼コーポレート本部長 菊池 烈

電話番号：03（6893）0650

2023 年 3 月期第 2 四半期決算説明会（2022 年 11 月 22 日実施）質疑応答サマリー

質問 1

Appendix に記載のトピックスについて詳しく教えてください。

回答

まず、A.L.I.Technologies という空飛ぶ「ホバーバイク」を開発する会社に、過去、本体から出資しており、現在この米国法人が NASDAQ 市場への SPAC 上場を進めております。私たちの投資先における初めてのイグジット案件になろうかという状況です。

次に、国内の SaaS の中でも超有力銘柄といわれる、アンドパッド社にも本体から出資を行いました。今後も引き続き、人とお金を組み合わせたハイブリッドキャピタルとして、基本的にはファンドからの出資となりますが、投資活動を積極的に行っていきたいと考えております。

最後に、2022 年 12 月 14 日、第 3 回目の成長産業カンファレンス『FUSE』を開催いたします。今回は、5,000 名規模の開催となり、国内のスタートアップカンファレンスにおいて最大規模となる予定です。また、初のピッチコンテストも行いますが、こちらの審査員の方々含め、登壇者には大変メジャーな国内外のみなさまに集っていただいております。セコイア・チャイナ、ビジョン・ファンド、ウーブン・キャピタル、さらに Google や Microsoft の US のチームも参画します。日本のスタートアップにどれだけ可能性があるのかということを見定め、投資の機会を作ろうとお考えになられている国内外のトップチームがこぞって集う場所となっております。オンラインで配信いたしますので、ぜひ、こちらの『FUSE』イベントをご視聴いただければ幸いです。

質問 2

ミドルレイヤー層の紹介と採用支援サービスの強化で 1Q 比成長をキープできたとのことですが、事業をうまく転換できた要因はなんでしょうか。

回答

フォースタートアップスが、「スタートアップ村」の中にいるということが重要だと思います。市場・スタートアップの状況を一番早く知ることができ、次にどこが成長しそうなのかを先に読んでいます。例えば、昨年の BtoB SaaS のインサイドセールスとカスタマーサクセスの大量募集が今年はなくなるだろうということを捉えており、どこに注力すれば、マーケットにおられるスタートアップの方々へ最良の貢献ができるのか、これを瞬時に判断して対応できたことが一番大きかったと考えております。

質問 3

GAFAM のリストラ等は、傍から見ると当社が今回注力していた領域にも影響しそうだと思うのですが、いかがでしょうか。

回答

GAFAM のリストラは、当然ながら私たちが注力している領域にも影響があると思います。ただし、このような状況下でも数十億円のエクイティ調達をされたり、数百億円のデット調達をされたりと、攻めに出ておられる企業さまもおります。その状況は、STARTUP DB でウィークリーレポートとしてマーケットにお届けしておりますが、私たちは、このような攻めに出ておられる企業さまとともに歩むことができなければ、今の堅調な足元の業績をそのまま進捗できるのではないかと考えております。

質問 4

総合スタートアップ支援事業者になるとのお話でしたが、人材紹介と資金供給以外には具体的に何をやるのでしょうか。

回答

人と資金の両面支援をハイブリッドキャピタルと呼んでおりますが、それに加えて、私たちはオープンイノベーション事業を行っており、3つのドメインを持っております。

1つ目は、STARTUP DB のデータベース課金です。こちらは、競合他社サービスと比

較すると後発組でありながら、しっかりと ARR の成長を果たしております。ですので、今後もデータベース課金を成長させていくことに取り組んでまいります。

2 つ目は、スタートアップ政策支援「Public Affairs」です。今年、国策としてのスタートアップ支援というものが政府から明確に示されました。フォースタートアップスも、政府向け、官公庁向け、自治体向けにスタートアップ政策の支援を行っております。現在、自治体ごとにスタートアップ政策を強められる都市、エリアというものを国が指定をしております。フォースタートアップスは、この都市・エリアを中心としたインキュベーションプログラム、アクセラレーションプログラムを受託するというかたちで、大きく成長してきている段階です。引き続き、この分野は可能性があるものと感じており、伸ばしていきたいと考えております。

3 つ目は、先ほどご紹介をしたスタートアップカンファレンスです。こちらは、規模を拡大していきたいと考えています。

以上、様々な領域から、スタートアップを応援する仕組みづくり、いわゆるエコシステム構築に取り組んでいきたいと考えております。